

各 位

2024年7月18日  
株式会社インプレス

AIをビジネス活用するためのバイブル『AIビジネスチャンス 技術動向と事例に学ぶ新たな価値を生成する攻めの戦略（できるビジネス）』を2024年7月18日（木）に発売  
姉妹本『DXビジネスモデル 80事例に学ぶ利益を生み出す攻めの戦略』の全文無料公開&本書の一部が無料で読める発売記念キャンペーンも実施！

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、AIをビジネス活用するためのノウハウを網羅的に図解した書籍『AIビジネスチャンス 技術動向と事例に学ぶ新たな価値を生成する攻めの戦略（できるビジネス）』を2024年7月18日（木）に発売いたします。また、発売を記念して本書の一部無料公開と姉妹本『DXビジネスモデル 80事例に学ぶ利益を生み出す攻めの戦略（できるビジネス）』の全文を無料公開するキャンペーンを2024年7月18日（木）～7月24日（水）の期間で実施します。



### ■生成AI時代のビジネスに必要な知識を凝縮

いま海外の巨大ITテック企業が相次いで日本に投資を行っています。その背景には日本における生成AI関連サービスの強化や拡充があり、文字通りAIをビジネスチャンスと捉えているのです。本書はその波に乗るための指南書として、昨今のAIに関するトピックを広く深く掘り下げています。「AIによって文章や画像が生成される仕組みを理解したい」「AI業界のプレイヤーたちの動向を知りたい」「先進的な事例を参考にしたい」「この先の展望を眺めたい」といったトレンドに敏感なビジネスパーソンのニーズにしっかりと応える充実の1冊です。

### ■技術動向から先端事例まで丸わかり

本書は昨今の生成AIが私たちの仕事や生活にどのような影響を及ぼすのかに始まり、機械学習や大規模言語モデル（LLM）、拡散モデルといったAIを支える技術、AIが文章や画像を生成する仕組みを丁寧に図解しています。また、本書ではAIの活用軸を「業務効率化」「価値創出」の2つに分類し、それぞれユースケースとベストプラクティスを詳解。加えてAI活用による業界ごとの労力削減効果もシミュレートしています。本書を読めば、AIの仕組みが理解できるだけでなく、ビジネスに落とし込むためのノウハウ、気をつけるべき課題や今後の展望まで幅広い知識が身につきます。

■本書は以下のような方におすすめです

- ・ LLM（大規模言語モデル）の技術を理解したい
- ・ AIの導入&開発ノウハウを知りたい
- ・ LLM主要プレイヤーの戦略を俯瞰したい
- ・ 先進的なAIの活用事例を知りたい
- ・ AIの今後の展望を眺めたい

■紙面イメージ

### 2.6 生成AIを支える技術

## LLM(大規模言語モデル) ～自然言語を理解する技術～

**図表2-6-1 言語モデルの学習イメージ**

文章データ → 学習 → 言語モデル → 「ボールを」の次単語の確率

文章データ中で頻りに共起する単語は次単語となる確率が高い

**図表2-6-2 言語モデルの次単語予測イメージ**

言語モデルへの入力文 → 次単語予測の確率

ピッチャーがボールを → 投げる, 打つ, 捨てる

ピッチャーが足元に転がってきたボールを → 投げる, 打つ, 捨てる

入力文の文脈に応じて次単語予測の確率が変化する

**図表2-6-3 LLMのタスク切り替えイメージ**

LLMへの入力文 → LLMの回答例

「吾輩は猫である」のその後の物語を作成して → 文章生成

「吾輩は猫である」の猫の名前を教えてください → 質問応答

「吾輩は猫である」を要約して → 要約

**人間の言葉に対応可能なAIモデル**

LLMとはLarge Language Model(大規模言語モデル)の略称で、**入力された文章に対して、まるで人間が書いたような回答を生成できるAI**の一種です。LLMは大規模な学習データを用いた教師なし学習で言語の構造を学習するため、複雑な文脈に対応する適切な文章を生成できます。

**LLMの動作原理**

LLMは非常に高度なAIですが、その動作原理は「言語モデル」と呼ばれるシンプルなものです。言語モデルとは、特定のAIを指す言葉ではなく、**ある単語の次に出現する単語を次々と予測するシステムやアルゴリズムの総称**です。言語モデルは大量の文章データを用いた学習を通して、入力された文や単語の次に来る可能性が高い単語を予測する能力を獲得します。この予測は確率に基づくため、学習データ中で頻りに現れる単語ほど、予測される可能性が高くなります。学習データ中に「ボールを投げる」というフレーズが多く使われている場合、モデルは「ボールを」と入力された際に「投げる」を次の単語として予測することが多くなります(図表2-6-1)。

LLMなどの高度な言語モデルが予測する次の単語は、**入力文の文脈に応じて変化**します。入力文が「ピッチャーがボールを」の場合は、依然「投げる」を予測する可能性が高いですが、入力文が「バッターがボールを」の場合は、「打つ」を予測する可能性が高まります。さらに、入力文が「ピッチャーが足元に転がってきたボールを」であれば、LLMは「捨てる」を予測する可能性が高くなるでしょう。このようにして、**入力文の次に来る単語を次々と予測**することで、LLMは入力文の命令に応じた適切な文章を生成します(図表2-6-2)。

**LLMを使うことができること**

高精度の言語モデルは、**文章生成、質問応答、文章の要約**など多数のタスクで高い性能を発揮します。文章生成においては、ユーザーが提供した情報に基づいて、流暢な文章を作り出せます。質問応答では、質問の意図を理解し、適切な回答を生成することが可能です。また、テキストの要約では、長い文章から主要なポイントを抽出し、簡潔な形式で情報を提供できます(図表2-6-3)。これらの能力は、**モデルが複雑な文脈を認識し、それに応じた単語を選択**することで実現されています。

生成AIの技術要素をわかりやすく図解

### 5.1 文書作成

## 有益な営業戦略策定につながる 商談内容の議事録生成AI

生成AIを用いた議事録生成ツールは、会議や商談の自動記録・要約、非言語要素分析、生産性向上、およびビジネスメリットの最大化に貢献

**図表5-1-1 議事録生成AIの活用事例**

顧客との商談内容(録音データなど) → 議事録生成ツール → 顧客管理システム

議事録生成ツール: 音声認識(テキスト化) → データ整形・要約 → 商談内容の採点 → 次の商談内容を提案

顧客管理システム: 高談情報, 専門用語, 過去の商談履歴, 商品DB

営業担当者: 顧客との商談内容(録音データなど) → 議事録をチェック → 採点レポートを確認(育成に活用) → 提案書に反映

①営業担当者の業務負担軽減, ②商談履歴の品質が向上, ③営業戦略の最適化

**概要・特徴**

商談内容の議事録生成AIツールは、会議や商談の内容を自動で記録し、議事録を作成するシステムです。音声認識技術と生成AIを融合させた高精度な文字起こし技術を用いて、音声データをリアルタイムでテキスト化し、内容を分析して要約を生成します。業界用語や特定の製品名を事前に登録することで、専門的な言葉も正確に文字起こしでき、商談での重要ポイントや話者ごとの発言を明確に区別して記録する機能も特徴です。

また、このシステムは過去の商談履歴から「勝ちパターン」を分析し、採点する機能を備えています。オンライン会議と対面会議のどちらにも対応しており、多様なビジネスシーンでの使用が可能です。

**ビジネスメリット**

生成AIを利用した議事録生成ツールを導入することで、企業は多くのビジネスメリットを享受できます。

- ①効率的な業務運営：手動での記録作業が不要になり、時間と人的リソースの節約が可能
- ②業務品質の向上：話者ごとに明確に区別して記録されるため、議事録の正確性が担保され、業務品質の向上につながる
- ③事業成長への貢献：勝ちパターン分析による商談の成功率アップは事業成長に寄与。また、情報品質管理が容易になることで誤解や情報の不一致が減少。これにより迅速で正確な意思決定を実現

**Point**

このシステムの音声認識機能は多言語に対応しており、国際的なビジネス環境での会議や商談にも適用可能です。これにより、異なる言語を話す参加者間でも効果的なコミュニケーションと議事録の作成が実現されます。

**多言語対応なので海外との会議や商談にも対応**

AIのユースケースを分析。応用ノウハウが身につく

AIを正確に理解するために知っておくべきこと

AIの活用事例

148

149

## ■発売記念キャンペーンを実施

本書の発売を記念し、本書の第2章と第5章を無料公開および本書の姉妹本にしてベストセラー本の『DXビジネスモデル 80事例に学ぶ利益を生み出す攻めの戦略（できるビジネス）』の全文無料公開を実施します。以下の期間中、キャンペーン特設ページから閲覧できます。

・キャンペーン期間  
2024年7月18日（木）～7月24日（水）

・キャンペーン特設ページ  
<https://book.impress.co.jp/items/cp240718>

書籍内容の提供には、自社開発の「インプレスWebブックビューアー」を使用します。Webブラウザで紙面を閲覧できるので、場所や時間を選ばずにPCやスマートフォンなどから登録不要で利用できます。また、SNSで書籍の情報を共有したり、書籍の購入や詳細を確認したりできる機能も備えています。

## ■本書の構成

- Chapter 1 生成AIがもたらすパラダイムシフト
- Chapter 2 AIを「武器」にするために知っておくべきこと
- Chapter 3 AIを導入&開発するために必要なこと
- Chapter 4 [業界別] AIの活用動向&効率化シミュレーション
- Chapter 5 [目的別] 生成AIの活用事例
- Chapter 6 生成AIによる新たな価値創出
- Chapter 7 生成AIの潮流を知りビジネスを加速する

## ■書誌情報



書名：AIビジネスチャンス 技術動向と事例に学ぶ新たな価値を生成する攻めの戦略（できるビジネス）

著者：荻野調、小泉信也、久保田隆至、大塚貴行 著／デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 監修

発売日：2024年7月18日（木）

ページ数：256ページ

サイズ：A5正寸

定価：2,310円（本体2,100円＋税10%）

電子版価格：2,310円（本体2,100円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01927-5

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/4295019275/>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1123101128>

◇書影のダウンロードページ：<https://dekiru.net/press/501927.jpg>

## ■書誌情報



書名：DXビジネスモデル 80事例に学ぶ利益を生み出す攻めの戦略  
(できるビジネス)

著者：小野塚征志 著

発売日：2022年5月19日 (木)

ページ数：272ページ

サイズ：A5正寸

定価：1,900円 (本体2,090円+税10%)

電子版価格：1,900円 (本体2,090円+税10%) ※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01391-4

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/429501391/>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1121101054>

◇書影のダウンロードページ：<https://dekiru.net/press/501391.jpg>

## ■著者プロフィール

### 荻野 調 Ph.D. (おぎの・しらべ)

ハーバード大学大学院にてComputer Science修士号を、東京大学大学院にて工学博士号を取得。一橋大学大学院MBA。ハーバード留学時に単位交換制度を利用してMITにて教鞭をふるっていた”AIの父”Marvin Minskyに学ぶ。20代はソニー等で新規事業立ち上げや、500億円規模の事業再編を経験。30代は住友系・伊藤忠系ベンチャーキャピタルにて米国シリコンバレーやイスラエルなど数十社に投資し、M&A、IPOなどのExitを実現。40代はグリーにて事業開発部や子会社を率いて、グローバル事業を立ち上げ、Yahoo/KDDI等との戦略提携・ゲーム会社等への投資・事業売却等に従事。その後アントレプレナーとしてAI×Financeのスタートアップを設立し、銀行・証券等の金融機関へAIエンジンやサービスを提供。

2023年よりデロイトトーマツコンサルティング合同会社 CSO Officeにジョインし、生成AI特別チームにて技術面・エミネンス面を率いる (現職)。

フィンテック協会理事 (2016～2020)。クラウド・AI 表現技術検定試験委員 (2021～現在)。

### 小泉 信也 (こいずみ・しんや)

早稲田大学理工学研究科情報ネットワーク専攻、修士号取得。NTTコミュニケーションズにて、大規模ネットワーク運用、メディア向け全国情報ネットワーク構築などのプロジェクトマネージャを経験。その後、クラウド活用したアプリケーション開発チームリードや、AI活用したPoC・技術検証チームリードを経験 (JDLA Deep Learning for ENGINEER 2019 #2 取得)。

2020年よりデロイトトーマツコンサルティング合同会社DX Garageに入社し、エネルギー業界向けのアプリケーション開発PJや、製造業向けデータ分析基盤構築PJ、パブリックブロックチェーン活用した技術検証やプロトタイプ開発など、さまざまなシステム開発PJチームリード。現在は、生成AI特別チームで、コンサルタント業務変革に向けて、LLM活用した技術検証・ツール開発チームリード (現職)。

### 久保田 隆至 Ph.D. (くぼた・たかし)

2011年に東京大学大学院にて物理学の博士号を取得。博士課程では欧州原子核研究機構 (CERN)にて新型加速器を用いた新粒子探索のための検出器の構築と最初期のデータを用いた物理解析を行う。高エネルギー物理奨励賞 (2011年)、日本物理学会若手奨励賞 (2012) を受賞。

学位取得後、メルボルン大学の研究員として引き続き素粒子物理の研究を行う。2012年にCERNで発見されたHiggs粒子の研究に貢献するとともに、Australian Research CouncilよりDiscovery Early Career Researcher Award Award (2014年)、Discovery Project (2016年) 等、複数の競争的資金を獲得し、自身の検出器開発プロジェクトを推進した。

2018年に帰国、大手特許事務所、日系総合コンサルティングファームを経て、2021年にデロイトデロイトトーマツコンサルティング合同会社に入社。現在、生成AI特別チームにて大規模言語モデル (LLM) の技術検証チームをリード。

## 大塚 貴行（おおつか・たかゆき）

NTTドコモにて、iモードやGPS携帯電話におけるローケーションサービスの開発や、JTBと提携による旅行業への進出など、新規事業領域において多角的に活動。ドコモ・電通系の広告代理店にて、ポイントマーケティングを専門とした組織の立ち上げを行い、dポイントクラブサイトの受託運営など、事業拡大に成功する。その後、求人広告会社にて、日本最大級の医療・介護求人サイトを新規に立ち上げるとともに、非正規労働市場に関する総合研究所では、編集長としてリサーチレポートをメディア発信。2022年からは、デロイトトーマツコンサルティング合同会社に入社し、データドリブンな人事系コンサルの推進を目的にPeople Analyticsの基盤構築や、Generative AIによるコンサルビジネスの変革を推進（現職）。

## デロイト トーマツ コンサルティング合同会社について

デロイト トーマツ コンサルティングは国際的なビジネスプロフェッショナルのネットワークである Deloitte（デロイト）のメンバーで、日本ではデロイト トーマツ グループに属しています。デロイトの一員として日本のコンサルティングサービスを担い、デロイトおよびデロイト トーマツ グループで有する監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務・法務などの総合力と国際力を活かし、あらゆる組織・機能に対応したサービスとあらゆるセクターに対応したサービスで、提言と戦略立案から実行まで一貫して支援するファームです。5,000名超のコンサルタントが、デロイトの各国現地事務所と連携して、世界中のリージョン、エリアに最適なサービスを提供できる体制を有しています。

以上

---

### 【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

### 【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

### 【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: [pr-info@impress.co.jp](mailto:pr-info@impress.co.jp) URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。